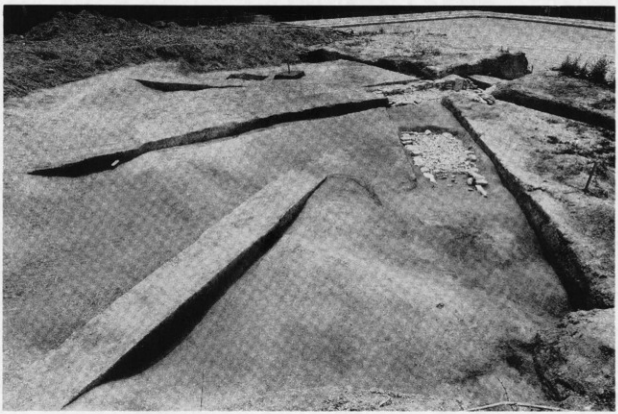
観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書

上母神８号古墳

（母神山古墳群）

1998. 3

観音寺市教育委員会



上母神8号古墳全景

母神(羽上)山全景（航空写真－昭和30年代）

例　　言

1．本書は、観音寺市教育委員会が埋蔵文化財調査事業として実施した発掘調査の概要報告書である。

2．本事業は、観音寺市木之郷町字上羽上469－内第２－甲外に所在する上母神８号古墳において平成８（1996）年２月５日から平成８年（1996）９月27日まで実施された。

3．発掘調査及び本書の執筆・編集、出土遺物の整理・実測は、観音寺市教育委員会事務局　生涯学習課　文化振興係　主任主事　久保田昇三が担当した。

4．挿図の一部に国土地理院地形地図　観音寺（1／50,000）を使用した。図面の方位はすべて、磁針方位で示した。また、実測図の縮尺はすべてスケールで表示した。

5．出土遺物は観音寺市郷土資料館で保管している。図面・写真等は観音寺市教育委員会事務局で保管している。

6．本事業の実施にあたっては、三豊地区広域市町村圏振興事務組合の方々をはじめ、発掘調査に携わった坂田昇氏、西山秋久氏、松本光男氏のご協力を頂いた。記して謝意を表する。

7．本書の執筆にあたっては、渡部明夫氏、片桐孝浩氏、笹川龍一氏、山本英之氏、川畑聰氏、蔵本晋司氏、阿河鋭二氏、片桐節子氏、堀田一夫氏、竹内良雄氏の助言・協力を得たので記して謝意を表する。

目　　次

巻頭グラビア・例言・目次

頁

1．調査に至る経緯と経過 …… 1

2．立地と環境 …… 1
周辺遺跡地図（1／50,000） …… 2
母神山古墳群分布図 …… 3

3．調査概要 …… 4
地形測量図・トレンチ配置図 …… 6
周辺地形測量図 …… 7
第1石室・第2石室平面実測図 …… 8
第1石室全体実測図 …… 9
第2石室全体実測図 …… 10
土層図 …… 11
出土遺物実測図 …… 13

4．まとめ …… 14

5．研究ノート …… 15

6．写真 …… 23

1．調査に至る経緯と経過

母神（はがみ）山は江戸時代の天保年間（1830～1843）の頃より盛んに発掘されはじめられたらしく、大正10（1921）年に刊行された香川縣三豊郡史には車塚（甕棺（ひさご）塚）付近の写真が掲載されているが、既に上母神８号墳の存在する場所は開墾され畑になっている状況が窺える。

平成７年１月に三豊地区広域市町村圏振興事務組合より三豊総合運動公園拡張事業（自由広場）に伴う埋蔵文化財の所在について照会を受け同年５月に事業対象地区内の試掘調査を実施した。結果、これまで未確認であった横穴式石室の一部が確認され、今回、遺跡の性格・年代等の詳細な資料を得るため発掘調査を実施するに至った。

2．立地と環境

上母神８号墳がある母神山は羽上（はがみ）山とも呼ばれ、香川県観音寺市内にあり同市の粟井町、池之尻町、木之郷町にまたがる位置に立地し、山全体が花崗岩で形成され、周囲は約４kmある。また、同山は三豊平野（観音寺市・三豊郡）のほぼ中央部に位置し三豊平野全域と瀬戸内海を一望できる場所であり、山の南北には柞田（くにた）川と財田川が西方に向い瀬戸内海に流れ込んでおり、周辺地域は水利的にも恵まれた場所でもある。現在は、開発により山頂部が失われているが、記録では標高約92m程度であったようである。

また、母神山は６世紀代から７世紀代（古墳時代後期～終末期）にわたり県下でも屈指の古墳群が形成された場所でもある。母神山古墳群と呼ばれるこの古墳群は、かつては70基を越えて存在していたと推定される。代表的なものに、前方後円墳に周溝を有する甕棺墳古墳【６ｃ前半】、金銅製単鳳環頭太刀柄頭、三葉環頭柄頭、銀製冠立飾、金銅製馬鈴等が出土し複室構造の石室を持つ鐘子（かんす）塚古墳【６ｃ後半】、県下でも横穴式石室としては古手の部類に入る千尋（ちひろ）神社４号古墳【６ｃ中葉】などがある。

なお、母神山には古墳時代のほかに弥生時代の壺棺等の遺物が出土しており、具体的な遺構の確認はされていないが、古墳群造営以前に弥生期の何らかの遺跡が存在していたと思われる。

母神山古墳群のある地域周辺は、律令体制下の讃岐国刈田郡紀伊郷の郷域に比定されている。郷内には延喜式内社の粟井神社（粟井町）、於（うえの）神社（粟井町）の２社があり、郡内にはその他のものをあわせると計６社（黒島神社、山田神社、高屋神社、加麻良神社）が存在する。また、郡名、郷名に深い関わりが想定される刈田氏（※）に関連する伝承がある乳若屋敷（粟井町）があることや母神山の麓にゴンゲ（郡家？）という地名が残されていることも非常に興味深い。また、紀伊郷に接する刈田郡柞田郷には南海道の柞田駅があったといわれ、刈田郡衙江郷（三豊郡大野原町）内には巨石を使用した大野原古墳群（椀貸塚、平塚、角塚、岩倉塚等）がある。また古代寺院には、母神山古墳群と大野原古墳群の中間あたりに紀伊廃寺（安井廃寺・青岡大寺）があり白鳳期の瓦の出土例がある。

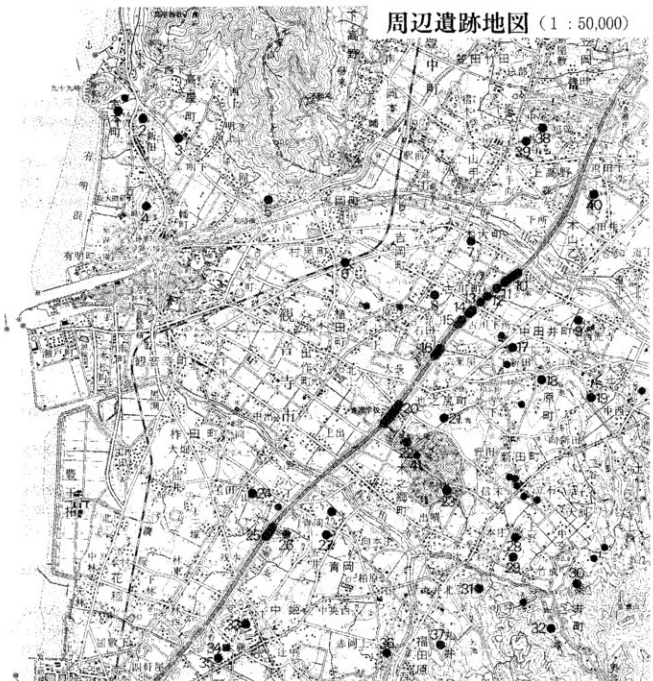
※刈田氏について（日本三代實録より抜粋）

貞観４年（862）５月　讃岐国刈田郡人直講従六位上刈田首安雄。散位従七位上刈田首氏雄。阿波博士従八位上刈田首今雄等三人。改本居録左京職。

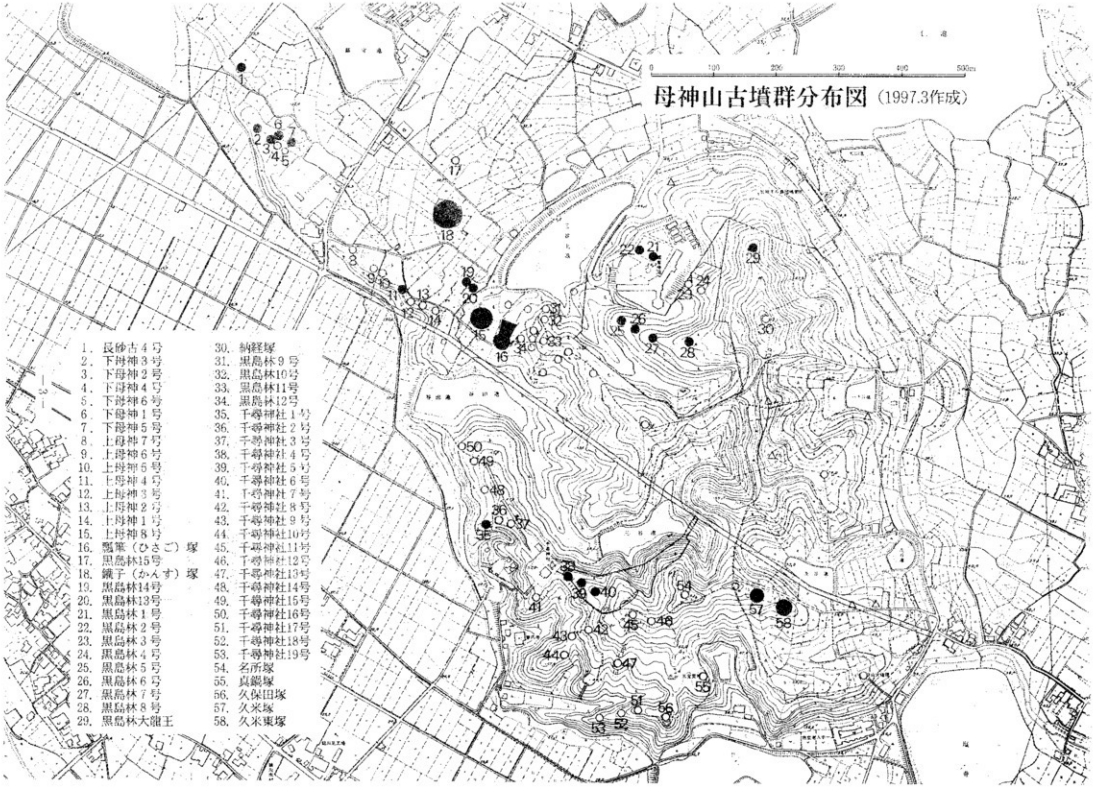
貞観９年（867）11月　左京人従五位下行直講刈田首安雄賜姓紀朝臣。安雄自言。武内宿祢之裔也。

仁和２年（886）５月　前馬防守従五位上紀朝臣安雄卒。安雄者左京人。助教従五位下種継之子也。…安雄父本姓刈田首。讃岐國人。至于安雄。賜姓紀朝臣。為京兆人。安雄幼以學見稱。性寛裕柔順訓物。始補得業生。天安二年為大學直講。貞観初。渤海國王遣使朝聘。以安雄為存問兼領客使。五年授外從五位下。九年授從五位下。轉助教。此時有　勅。擇有識公卿大夫擢格式。安雄預之。十一年遷為勘解由次官兼下野介。十六年加從五位上。十八年遷為主計頭。明年出為武蔵守。政貴簡惠。吏民安之。秩滿匪朝歸京。元慶六年除縫殿長官兼周防守。…

周辺遺跡地図（1：50,000）



1．宰本遺跡
2．丸山古墳
3．なつめの木貝塚
4．興昌寺1号古墳
5．鹿隈雛子塚古墳
6．村黒遺跡
7．樋ノ口遺跡
8．古川遺跡（銅鐸出土地）
9．石ノ鉢遺跡
10．一ノ谷遺跡群（平塚地区）
11．一ノ谷遺跡群（香門地区）
12．一ノ谷遺跡群（竹道北地区）
13．一ノ谷遺跡群（竹道南地区）
14．一ノ谷遺跡群（山の前北地区）
15．一ノ谷遺跡群（山の前南地区）
16．石田遺跡
17．向井・西の岡遺跡
18．青塚古墳
19．辻吉遺跡（銅矛出土地）
20．長砂古遺跡
21．久染遺跡
22．鏑子塚古墳（母神山古墳群）
23．久米東塚古墳（母神山古墳群）
24．作田駅跡
25．作田八丁遺跡
26．小天王塚古墳
27．紀伊廃寺（青岡大寺・安井廃寺）
28．上野古墳
29．乳岩屋敷（伝承地）
30．藤の谷遺跡（銅剣出土地）
31．平岡1号古墳
32．岩鍋遺跡
33．琉谷塚古墳
34．鳥塚古墳
35．平塚古墳
36．赤岡山古墳群
37．緑塚古墳群
38．大塚古墳
39．姉音寺
40．延命古墳
41．上母神8号古墳


母神山古墳群分布図（1997.3作成）
0 100 200 300 400 500m
1. 長砂古4号
2. 下母神3号
3. 下母神2号
4. 下母神4号
5. 下母神6号
6. 下母神1号
7. 下母神5号
8. 上母神7号
9. 上母神6号
10. 上母神5号
11. 上母神4号
12. 上母神3号
13. 上母神2号
14. 上母神1号
15. 上母神8号
16. 甕筆（ひさご）塚
17. 黒島林15号
18. 鐘子（かんす）塚
19. 黒島林14号
20. 黒島林13号
21. 黒島林1号
22. 黒島林2号
23. 黒島林3号
24. 黒島林4号
25. 黒島林5号
26. 黒島林6号
27. 黒島林7号
28. 黒島林8号
29. 黒島林大龍王
30. 納経塚
31. 黒島林9号
32. 黒島林10号
33. 黒島林11号
34. 黒島林12号
35. 千尋神社1号
36. 千尋神社2号
37. 千尋神社3号
38. 千尋神社4号
39. 千尋神社5号
40. 千尋神社6号
41. 千尋神社7号
42. 千尋神社8号
43. 千尋神社9号
44. 千尋神社10号
45. 千尋神社11号
46. 千尋神社12号
47. 千尋神社13号
48. 千尋神社14号
49. 千尋神社15号
50. 千尋神社16号
51. 千尋神社17号
52. 千尋神社18号
53. 千尋神社19号
54. 名所塚
55. 真観塚
56. 久保田塚
57. 久米塚
58. 久米東塚

3．調査概要

上母神８号古墳のある場所は、Ｔ．の経緯と経過でも記したが、既に大正時代には開墾され農地として耕作されている状況が確認できる。当時の写真には、ここにかつてマウンドを持った古墳が存在していたとは思えない状況が撮されており、相当古い段階で破壊されていたことが想定できる。

その後、試掘調査の段階までは、竹が一面に繁茂していた状況もあり、横穴式石室が確認されるまで遺跡の存在は想定し難い状況であった。

試掘調査で確認された横穴式石室を中心に、墳丘規模、石室の状況等の確認のためＮ、Ｗ、Ｓ、Ｓ、Ｅ、Ｅ、ＮＥの各トレンチを設定した。以下にその状況を記する。

Ｎトレンチ　・表土より約15～20㎝で版築土層を確認。
・墳裾および周溝については、開墾による破壊を受け確認できなかった。

Ｗトレンチ　・石室の羨道部を確認。片側の石積は基底石と側壁の二石を残すのみであった。
・墓道は確認できなかった。

Ｓトレンチ　・Ｎトレンチと同様に版築土層を確認。
・墳裾および周溝については、開墾による破壊を受けているがある程度推定できる状況が確認された。

ＳＥトレンチ・周溝の一部を確認。

Ｗトレンチ　・周溝の一部を確認。

ＮＥトレンチ・試掘時に確認されたもののほかに、少し小型ではあるが、もう一つの石室（横穴式石室）を確認。

その後、二つめの石室が確認されたこともあり、表土層をすべて取り除き、その他の埋葬施設の存在の有無を確認するとともに、周溝の検出作業を行った。結果、二つめのほかには埋葬施設の存在は確認されず、本遺跡は一つの墳丘に二つの横穴式石室を有する古墳であることが確定した。また、周溝については、ＳＥトレンチからＮＥトレンチ間で良好な状態で確認、検出できた。

次に、石室の状況であるが、試掘調査で確認された石室を第１石室とし、ＮＥトレンチで確認された石室を第２石室とし、以下にその概要を記する。

第１石室　・Ｎ-66°-Ｗ方向に開口する横穴式石室で全長約５ｍあり、玄室長約3.4ｍ、玄室奥壁幅約1.6ｍ、羨道長約1.5ｍ、羨道幅約0.6ｍの規模である。但し、羨道については、築造当初には羨道長が現在残っている状態から約1.5ｍ長い規模であったと推定される状況が確認された。
・玄室の床面は、二重構造になっており、上層面（第２床面－埋葬床面）はおもに径５～10㎝前後の川原石を敷き詰め、下層面（第１床面）は大きいものでは長径30～40㎝程度の比較的大きめのものを使用し全面に敷き詰める構造をとっている。なお、第１床面の右半分（玄室奥壁を背にして）は比較的扁平な石材が敷かれていることや、耳環、玉類もその部分から出土していることから、第１床面を形成する段階から何らかの意図があったのではないかと推測される。
・出土品には、須恵器、（盖杯、広口壺、短頸壺等）、耳環、鉄器（鉄鏃等）、ガラス小玉、算盤玉、管玉等が出土しているが、出土位置については相当な破壊と盗掘を受けているためあまり参考とはならないが、玄室入口の左袖部付近に多く確認された。

第２石室　・Ｎ-59°-Ｅ方向に開口する横穴式石室で全長約3.8ｍあり、玄室長約2.6ｍ、玄室奥壁幅約1.2ｍ、羨道長約1.2ｍ、羨道幅約0.8ｍの規模である。但し、羨道長については現存長であ

る。

- 玄室の床面は、第１石室と同様に二重構造になっている。
  また、第１石室が奥壁側が高く羨道側が低い傾斜をもった床面であるに対して、第２石室はほぼ水平なものとなっている。
  なお、石室全体の石材についても第１石室に比べ小ぶりなものを使用している。
- 出土品には、紡錘車、鉄鏃、ガラス小玉等が出土しているが、須恵器は出土していない。

また、第１石室と第２石室間の土層を確認したが、両石室の構築順序（前後関係）を示す状況は確認されず、同時に構築された可能性が高いと推測される。また、石室構築のため地山を掘り込む掘り方のようなものは確認されず、別な構築方法（簡略化？）で石室および墳丘が築造されたと考えられる。

その他

- 今回の調査区内の上母神８号墳の北東側には、周溝状の溝状遺構と原型をとどめていないが古墳の石室を破壊しその石材を集めたと思われる川原石が集積されている状況が確認できた。出土遺物としては、７世紀後半のものと思われる須恵器が溝状遺構と川原石が集積されている場所より出土している。

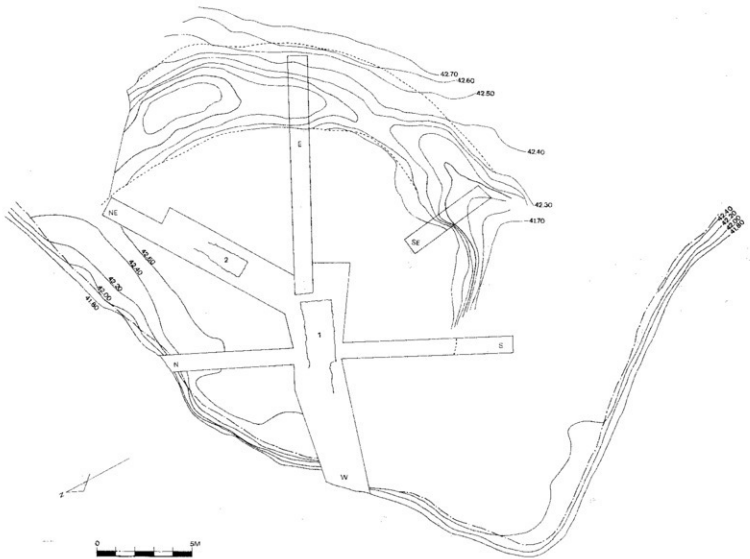
最後に、参考資料として上母神８号古墳と母神山古墳群内の主な古墳との比較を下表に記した。

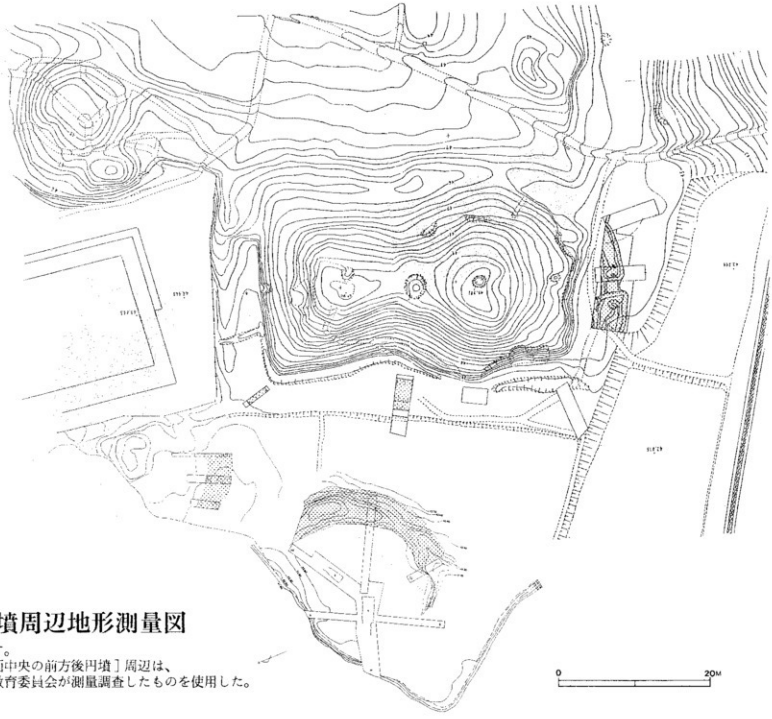
《参考》母神山古墳群内墳丘規模等比較表

	上母神８号		久米東塚	久米塚	鐘了塚	黒島林１	千尋神社４
墳　形	円墳		円墳	円墳	円墳	円墳	円墳
墳丘直径	19		21	21	30	20	16
墓域直径	27		24	－	40	－	－
埋葬施設	第１横穴式	第２横穴式	横穴式	横穴式	横穴式	横穴式	横穴式
袖形態	両袖式	両袖式	両袖式	両袖式	両袖式	両袖式	両袖式
開口方位	ＷＮＷ	ＥＮＥ	Ｓ	ＳＳＷ	Ｓ	ＳＷ	ＮＥ
石室全長	6.5	3.8	9	6	9.8	5.8	5.35
玄室長	3.4	2.6	4.8	3	5.6	3.6	3.8
玄室奥幅	1.6	1.2	1.64	1.8	2.55	1.8	1.6
玄室高	－	－	－	－	3.2	－	－
羨道長	3	1.2	4.2	3	1.2	2.2	1.8
羨道幅	0.6	0.8	0.8	0.88	1.45	1.35	0.75
玄門幅	0.6	0.8	0.8	0.62	1.25	1	－
羨　道	－	－	－	有	有	－	有
排水溝	－	－	－	有	有	－	有
特記事項	１墳丘２石室		－	－	複室構造	－	－
時　期	６Ｃ末～７Ｃ前葉		６Ｃ後半	６Ｃ後半	６Ｃ後半	６Ｃ末	６Ｃ中葉
調査年度	平成７年		平成８年	平成７年	昭和48年	昭和41年	昭和48年

※(1)数値の単位はｍである。

上母神８号古墳
トレンチ配置図・遺構測量図



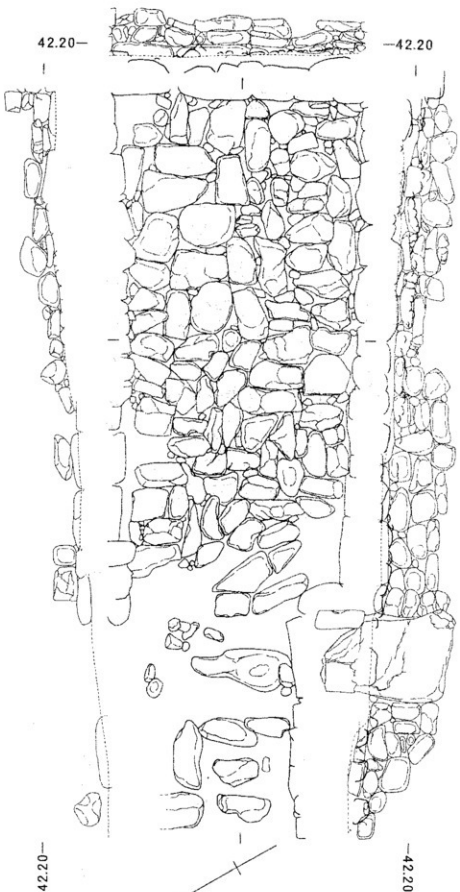


上母神 8 号古墳周辺地形測量図

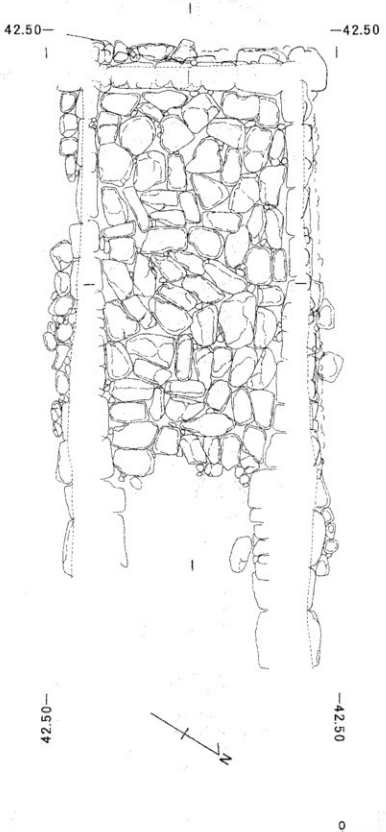
※ ▒▒▒ は周溝を示す。
※ 瓢箪(ひさご)塚［図面中央の前方後円墳］周辺は、
昭和62年度に香川県教育委員会が測量調査したものを使用した。

上母神８号古墳第１石室・第２石室平面実測図（床面は第２床面）

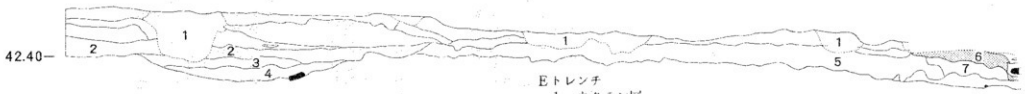
上母神8号古墳第1石室全体実測図（床面は第1床面）



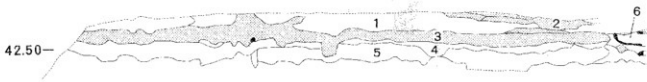
上母神8号古墳第2石室全体実測図（床面は第1床面）



土層図(1)

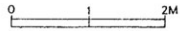


Eトレンチ
1．カクラン層
2．淡黄茶褐色粘質土
3．黄茶褐色粘質土
4．暗黒茶褐色粘質土
5．暗黄茶褐色粘質土
6．黒茶褐色粘質土
7．黄灰褐色粘質土

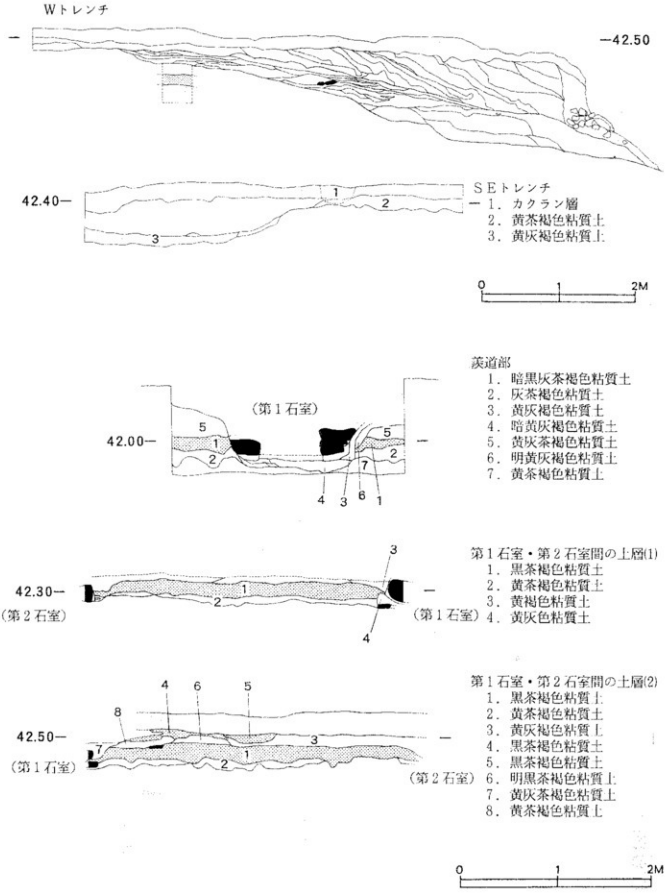


Nトレンチ
1．黄灰褐色粘質土
2．明黒灰色粘質土
3．暗黒灰褐色粘質土
4．暗黄灰褐色粘質土
5．黄茶褐色粘質土
6．黄灰褐色粘質土

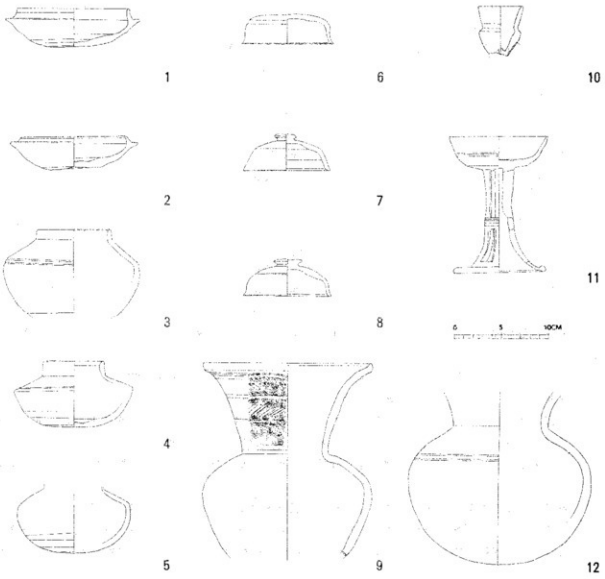
Sトレンチ
1．黄灰褐色粘質土
2．淡黒灰色粘質土
3．暗黒灰褐色粘質土
4．灰黄褐色粘質土

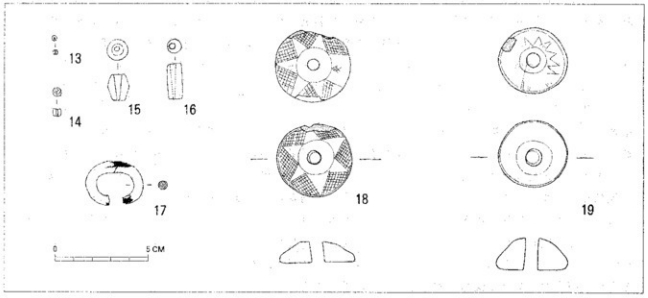


土層図(2)


Wトレンチ
42.50
42.40
SEトレンチ
1．カクラン層
2．黄茶褐色粘質土
3．黄灰褐色粘質土
0
1
2M
羨道部
1．暗黒灰茶褐色粘質土
2．灰茶褐色粘質土
3．黄灰褐色粘質土
4．暗黄灰褐色粘質土
5．黄灰茶褐色粘質土
6．明黄灰褐色粘質土
7．黄茶褐色粘質土
（第1石室）
42.00
42.30
（第2石室）
第1石室・第2石室間の土層(1)
1．黒茶褐色粘質土
2．黄茶褐色粘質土
3．黄褐色粘質土
4．黄灰色粘質土
（第1石室）
42.50
（第1石室）
第1石室・第2石室間の土層(2)
1．黒茶褐色粘質土
2．黄茶褐色粘質土
3．黄灰褐色粘質土
4．黒茶褐色粘質土
5．黒茶褐色粘質土
6．明黒茶褐色粘質土
7．黄灰茶褐色粘質土
8．黄茶褐色粘質土
（第2石室）
0
1
2M

出土遺物実測図





4．まとめ

上母神８号古墳の概要並びに特徴を以下にまとめてみる。

1．一つの墳丘に二つの横穴式石室を有する古墳である。

2．二つの石室の配置は、他府県の多くの類例が並列という配置形態をとっているのに対して、異方向（125°）に石室を配置している。ちなみに、第１石室は西、第２石室は北東方向に開口している。

3．二つの石室の規模は、第１石室が第２石室よりひとまわり大きく、使用石材についても第２石室のものと比べれば大きめのものを使用しており、両者には明瞭な格差がある。

4．二つの石室は、両袖式の横穴式石室とみられる。第１石室は、片方が失われているが、もう一方は明確に袖部を形成している。但し、母神山古墳群でよく見られる玄門立柱は存在しない。第２石室は、無袖に近い形態をとっており、両者には石室構造の点からも明確に異なった構造をとっている。

5．二つの石室の床面の構造はともに二重構造をとっており、両者とも最初に人頭大程度の石を敷き詰め（第１床面）、その上に玉砂利を敷き詰める（第２床面）構造である。特に、第１石室第１床面の右半分については平らな石が敷かれていることや第２床面のこの部分からは耳環やガラス玉が多く検出されていることなどから、あらかじめ第１床面を形成する段階で埋葬位置が意識されていたことが考えられる。第２石室についてはそのような構造はとっていない。また、第１石室の床面がかなり傾斜を持っているのに対して、第２石室はほぼ水平な構造であり、ここにも両者の違いがみられる。

6．二つの石室間の土層の状況及び周溝の平面プランと石室の配置状況等の関係から、二つの石室は古墳築造当初より設計プランに組み込まれ同時に築造されたと推定される。

7．周溝の検出状況、トレンチ調査等からの推定すると、墳丘直径約19ｍ、周溝最大幅約５ｍで周溝を含めた墓域は直径約27ｍの円墳であり、その中心点は第１石室と第２石室の中間あたりになる。規模の面から言えば、母神山古墳群中、瓢箪（ひさご）塚、錐子（かんす）塚に次ぐ第３位の規模である。

8．最後に、築造時期であるが、両石室が相当な破壊と盗掘をうけており、特に、第２石室については須恵器の出土が皆無の状態であったが、第１石室内の遺物により判断すると６ｃ末～７ｃ前葉（TK43～TK209相当期）のものと推定される。また、追葬の有無については判断しがたい状況であった。

以上、上母神８号墳の特徴を述べてきたが、一墳丘に二つの石室を有し、二つの石室が並列せず異方向に配置される形態を持つ事例は全国的にも極めて特異まれなケースであり、その意味で貴重な資料が得られたのではないだろうか。ただ、破壊、盗掘等によりその残存状況が悪く、特に、第２石室からの須恵器の出土が皆無であったことは誠に残念なことである。よって、同時に構築されたであろう二つの石室が同時に使用されたのか、ある一定の時間があけられて使用されたものであるかは不明であり、また、追葬についても第１・第２石室とも追葬があったものか、片方の石室のみであったのか、あるいは追葬は無かったのか判断しきれない。それにもまして、二つの石室の被葬者の関係も夫婦であるのか、親子であるのか、兄弟であるのか、主従であるのか、親戚であるのかも想像の域を出ないのである。ただ、規模からみて母神山古墳群内では前述の様に第３位の規模を誇り、立地上からも唯一の前方後円墳の瓢箪塚に近接して築造されていることからも恐らく瓢箪塚から錐子塚に続く当地域の首長の系統あるいはそれに近い人物等が被葬者であろうことは想像に難くないが、それに加え、古墳の構造・形態が他のものに比べ異彩を放っており、その点から言えばある特殊な地位あるいは役割を担っていた人物像を想定できないだろうか。いずれにしても、今後については他の類例の検討は言うまでもないが、新たなる発見の機会などを待ち慎重に検討していく必要がある。

5．研究ノート

上母神８号墳に見られるような一つの墳丘に複数の横穴式石室が設けられている古墳についてその類例を別表に示した。別表のものがすべてではなく今後とも類似例の増加が予測されるが、意外にその類例が多く、また、その分布に片寄りがあることが判明し、形態的にも様々なものがあり、現時点ではそれぞれが持つ意味の解明には非常に複雑で難解な問題であると思われる。以下に、別表作成中に気づいた点や今後の問題点を整理してみる。

分布状況については別表によると、畿内では大和17、河内６、和泉１、摂津２、山城１の計27基、南海道では紀伊５、阿波１、讃岐６、伊予25の計37基、山陽道では安芸２、周防１の計３基、山陰道では丹波１、伯耆６、出雲１の計８基、西海道では筑前３、筑後１、肥前２の計６基、東海道では伊賀１、武蔵１、下総１の計３基、東山道では近江４、美濃２、信濃１、上野２、下野１の計10基、北陸道では若狭１、越前２、能登１の計４基であり、大和を中心とする畿内と紀伊、讃岐、伊予にかけての瀬戸内海沿岸の南海道の地域にその多くが分布していることがわかる。なかでも伊予の松山平野周辺地域については、その形態的な差異はあるものの、特にその事例が多く見られることは興味深い。このことを下表に整理した。

	前方後円(方)墳	円　墳	方(長方)墳	その他(不明含む)	計
大　和	2	7	7	1	17
河　内		2	3	1	6
和　泉	1				1
摂　津	1	1			2
山　城	1				1
紀　伊	3	1		1	5
阿　波				1	1
讃　岐		3	1	2	6
伊　予	3	13	3	6	25
安　芸	1			1	2
周　防	1				1
丹　波	1				1
伯　耆	6				6
出　雲	1				1
筑　前	1	1		1	3
筑　後	1				1
肥　前	1			1	2
伊　賀	1				1
武　蔵	1				1
下　総			1		1
近　江	3			1	4
美　濃	1		1		2
信　濃				1	1
上　野	1			1	2
下　野	1				1
若　狭	1				1
越　前		2			2
能　登			1		1
計	33	30	17	18	98

※墳形の不明なものや判別が困難なものについてはその他に含めた。

年代的な側面については、横穴式石室を採用していることもあり、築造年代が判明していないものを除き、おおむね6世紀初頭から7世紀中葉の間に築造されたものが大半をしめる。時期的な観点からみると前方後円墳や円墳や方墳など墳形による違いでその時代的特徴は認められない。

また、石室配置形態であるが、円墳、方墳等ではその大半が同一方向に開口する並列かほぼ並列の石室配置となっている。これが全体的な傾向であるといえるが、これ以外のものも少数であるが存在する。上母神8号墳や小正西古墳のように2基の石室の開口方向の角度が直角よりも若干鈍角にひらく（本書では異方向としているが）ものやお姫山古墳のように直角よりも小さい角度（鋭角）にその石室が配置されているものもある。また、直角に配置されている事例も不確かであるがいくらかあるようである。このような石室の配置形態でも並列、ほぼ並列、異方向（鈍角、鋭角、直角）など様々であり、その配置形態についても何らかの意味があり、そのような諸形態が存在すると思われるが、現時点では想像の域を出ない。しかし、このような多岐にわたる石室の配置形態は、このような一墳丘に複数の横穴式石室墳を考察するうえでは一つの重要な視点になりうると考えられる。一方、前方後円（方）墳については、2基あるものについては後円部1基、前方部1基の同一方向（主軸に直交・斜行が多い）に開口するケースが多くみられる。また、3基あるものについては前述のものに加えてクビレ部や造出部に配置されるケースがみられる。特異な例としては、葉佐池古墳の様に石室を異方向に4基配置するものや海井原古墳の様に後方部に2基主軸に直交しまったく逆方向に配置するものや大塚古墳の様に後円部に前述のお姫山古墳の様な配置形態をもつものなどがある。いずれにしても、石室配置形態については被葬者等の意識的なものが感じられ、今後とも注目していくべきであろうと考えられる。

次に、石室の規模についてであるが、明らかに複数の石室間で格差があるものとほぼ同規模のものであまり格差が認められないものとがある。上母神8号、小正西古墳などが前者の典型例であり、舞谷古墳群、兵家夫婦塚などが後者の典型例である。おのずから、前者と後者ではそのもつ意味合いは違うであろうと思われるので、これもまたひとつの重要な第2の視点になると思われる。石室規模の大小で被葬者の生前の地位が反映されているとするならば、当然規模の格差のあるものと同規模のものではもつ意味合いが違うことが考えられ、前段で述べた石室配置形態とあわせて分類し考察すべき点であると思われる。その他として、石室規模並びに配置の特異なケースとして寺口千塚10号墳がある。中央に主となる横穴式石室がありその周囲に小型の石室を不規則に4基配置する形態であり、この地区に限定される形態であるが興味深い。

第3の視点として、石室構造がある。同一墳丘内に同一構造のものがある場合と異なった構造の石室が周居する場合がある。後者の例として、両袖式と片袖式がセットの場合、片袖式と無袖のセット、両袖と無袖のセットなどがある。同一墳丘内に石室を構築し埋葬するのであるから、互いに近い関係の人たちが埋葬されてしかるべきであり、当然、その石室構造もよく似た形式を採用するものと考えたいのであるが、それに反して構造を違えて石室を構築しているのである。構造の違いの意味するもの、それは果たして工人集団の違いだけであるものか、被葬者の生前の地位や担っていた役割などの違いによるものであるのか等、このことについても問題が多い。

第4の視点として、石室構築時期と石室使用（埋葬）時期（追葬を含む）の関係の問題がある。例えば、当初一墳一石室であった所にもう一つの墳丘と石室を重ねるように構築している場合（二古墳重複型）や同じく当初一墳一石室であったところに石室のみを追加している場合（石室追加型）、最初から計画的に複数の石室を一つの墳丘に構築する場合（同時構築型）などの事例がある。特に、同時構築の場合、その多くは複数の石室を同時に使用したとは考えにくく、最初の被葬者が埋葬される時点では最初に埋葬される以外の石室は、その石室に埋葬されるまで空の期間があるということになる。つまり、古墳を設計する段階からあらかじめ埋葬される人物を想定していたことが推測されるのである。つまるところ、同時構築の場合は、これまで述べてきた、石室配置、石室規模、石室構造は生前から埋葬される人物の意志が働いていると思われる。この状況は、本来横穴式石室がもつ特徴である追葬を同じ石室で行うことの性格が変容して、同じ石室に追葬するのではなく、同一墳丘内で事前に追葬のための別の

石室をあらかじめ準備しておき、追葬予定者が亡くなればその石室に追葬する（いわば追葬用石室）ように変化したのではないだろうか。これがいわゆる横穴式石室の個人墓化（単人葬化）で議論があるところであるが、これに加えて、複数の石室に追葬を行っている事例が葉佐池古墳などで確認されており問題をますます複雑にしている。以下に、不十分であるが現在筆者が考える複数の石室構築とその使用方法に関するモデルケース（試案）についてまとめてみた。

同時構築			追加構築		
A	○－● ○－●	同時使用 追葬無	H	○－● ○－●	追葬無
B	○－●－－◆-- ○－●－－◆--	同時使用 追葬有	I	○－●－－◆-- ○－●－－◆--	追葬有
C	○－● ○－●－－◆--	同時使用 追葬有（片側）	J	○－● ○－●－－◆--	追葬有（片側）
D	○－● ○－－●	時間差使用 追葬無	K	○－●－－◆-- ○－●	追葬有（片側）
E	○－●－－◆-- ○－－－●－◆--	時間差使用 追葬有	【備考】 ○は石室構築時期を示す。 ●は石室使用（埋葬）時期を示す。 ◆は追葬時期を示す。		
F	○－● ○－－－●－◆--	時間差使用 追葬有（片側）			
G	○－●－－◆-- ○－－－●	時間差使用 追葬有（片側）			

以上、上記にモデルケースを示したが、当然、これ以外のケースも考えられなくはない。また、上記のものは一墳丘に二つの石室がある場合に限定しているので、これが3基、4基になればその様相はますます複雑なものとなるであろう。

最後に、全国の大多数の後期以降の古墳が一つの墳丘に一つの石室が約束事のようにしてつくられていることに反して、一つの墳丘に複数の横穴式石室が構築されている古墳（一墳丘複数横穴式石室墳）について、①石室配置、②石室規模、③石室構造、④石室構築時期と石室使用（埋葬）時期の関係と4項目の視点を述べてきたが、今後この複雑な問題の考察を行うには最初に述べた分布、年代の要素も加味したところで行うべきであると思われる。加えて、蝦夷穴古墳のように特定の氏族のものと考えられているものや皇室関係のものではないかと考えられているものもあり、そのような観点からも検討を加えていくべきではないだろうか。

別表　一墳丘複数横穴式石室古墳一覧　　　　1998.02.03作成

番号	名称	所在		墳形	規模	石室配置	石室名	石室全長	玄室長	玄室幅	袖形態	特徴	時期	備考
1	シントク1号・2号墳	奈良県山辺郡都祁村	大和	瓢長楕円	径17+径10	2基並列	A 1号	9.32	3.74	1.43	右片袖		7c前半 TK209	
							B 2号	6	3.28	1.4	右片袖		7c前半 TK209	
2	寺口千塚2号墳	奈良県北葛城郡新庄町	大和	円	径8.5	2基	A 第1	3.85		1.22			6c末~7c初頭 TK209	
							B 第2	1.05		0.4				
3	寺口千塚3号墳	奈良県北葛城郡新庄町	大和	円	径8.5	2基	A 第1	3.55		1.13			6c後葉 TK43	
							B 第2	1.65		0.45				
4	寺口千塚10号墳	奈良県北葛城郡新庄町	大和	円	径10	5基	A 第1	5.87		1.37			6c後葉~7c初頭	
							B 第2	1.7		0.5				
							C 第3	1.91		0.5				
							D 第4	1.75		0.5				
							E 第5	1.14		0.42				
5	寺口千塚11号墳	奈良県北葛城郡新庄町	大和	円	径11.5	5基	A 第1	4.03		1.06	竪穴を含む		6c前葉 MT15	追葬有
							B 第2	1.85		0.64				
							C 第3	2.24		0.7				
							D 第4	1.41		0.39				
							E 第5	0.8		0.51				
6	寺口千塚15号墳	奈良県北葛城郡新庄町	大和	円	径13	2基	A 第1	5.45		1.11			6c前葉 MT15	
							B 第2	1.5		0.47				
7	団子山古墳	奈良県北葛城郡新庄町	大和	方	20×20	2基並列							6c後半~末	石室大小有
8	大和二塚古墳	奈良県北葛城郡新庄町	大和	前方後円	全長60	3基	A 後円部	16.41	6.73	2.98	両袖		6c前半 TK43?	
							B 前方部	9	3.9	1.7	片袖		TK43?	組合式石棺有
							C 造出部	7.82	4.48	1.47	無袖		TK43orTK217	
9	兵家大塚古墳	奈良県北葛城郡當麻町	大和	円	12~14	2基並列	A 西	2.5		0.6	無袖		7c後半	
							B 東	2.1		0.83	無袖			
10	花山西の一古墳	奈良県桜井市粟原	大和	円	径10	2基並列	A 西	4.1		1	無袖		7c前半以降	
							B				無袖			
11	三室山二号墳	奈良県生駒郡三郷町	大和	長方形	21.5×17.5	2基並列	A 南	4.2		1.3	無袖		7c前半以降	
							B 北	4.2		1.3	無袖			
12	三室山三号墳	奈良県生駒郡三郷町	大和	長方形	21.5×17.5	2基並列	A 北	4.2		1.3	無袖		7c前半以降	
							B							
13	舞谷古墳群1号	奈良県桜井市	大和	方	14×9	3基並列(推定)	A						7c中葉	榛原石使用
							B							
							C							
参考	舞谷古墳群2号	奈良県桜井市	大和	方	10.6×9	1基		4.1		1.75			7c中葉	榛原石使用
14	舞谷古墳群3号	奈良県桜井市	大和	方	14.6×9.47	3基並列	A 中央	4.48	2.56	0.85	横口式石槨状	[illegible]	7c中葉	榛原石使用
							B 西	4.65	2.7	0.89	横口式石槨状			
							C 東	4.7	2.8	1.1	横口式石槨状			Cは[illegible]
15	舞谷古墳群4号	奈良県桜井市	大和	方	14.4×10	3基並列	A 中央					[illegible]	7c中葉	榛原石使用
							B 西	4.35	2.31	0.86	横口式石槨状			
							C 東	4.3	2.3	0.86	横口式石槨状			Cは[illegible]
16	舞谷古墳群5号	奈良県桜井市	大和	方	15×10	3基並列(推定)	A						7c中葉	榛原石使用
							B							
							C							
17	珠城山3号墳	奈良県磯城郡大三輪町	大和	前方後円	全長47.5	2基並列	A 後円部	9.76	4.66	2.14	両袖		7c? TK209?	組合式家形石棺有
							B 前方部	8.7	4.42	2.1	片袖		TK209?	
参考	ワラ田古墳	奈良県宇陀郡	大和	長方形or楕円	17×12	2基並列	A 1号	5.6	3.16		竪穴系横口式		6c中葉	
							B 2号	3.1	2.64				同時期築造	
18	平尾山古墳群63支群13号墳	大阪府柏原市平尾山	河内	円	径7.5	2基並列	A 東	2.63		0.86	無袖		終末期	
							B 西	2.17		0.77	無袖			
19	山田高塚(推古陵)	大阪府南河内郡太子町	河内	長方形	59×55	2基?							7c前葉	
20	葉室塚	大阪府南河内郡太子町	河内	長方形	75×55	2基?							6c後半~末	
21	一須賀7号墳	大阪府南河内郡太子町	河内			2基	A 1号		3.2	1.4				
							B 2号		2.9	1.7				
22	山畑30号墳(D6号)	大阪府東大阪市	河内	方	約10×10	2基	A 東							
							B 西							
23	堂山5号・6号	大阪府大東市寺川	河内	円	径10	2基並列	A 5号	4.6	2	0.7	無袖		7c	外護列石有
							B 6号	3.9	1.7	0.8	無袖		Bが先行、墳丘中心	
24	向代1号墳	大阪府和泉市唐国	和泉	前方後円	全長35	2基	A 後円部	6.8	3.3	2.2	両袖式?		TK43~TK209	主軸に直交
							B 前方部	3.5	2.1	1.0			TK209	主軸に直交
25	二子塚古墳(鉢塚山古墳)	大阪府池田市井口堂	摂津	前方後円	全長約25	2基	A 後円部							墳丘平坦　主軸に直交
							B 前方部	6.72	4.5	1.54				主軸に直交
26	苦楽園五番町古墳	兵庫県西宮市苦楽園五番町	摂津	円	径12	2基並列	A 1号	5.3		1.2	無袖		7c第二四半期~中葉 TK217	
							B 2号	4.9		1.2	無袖		Aが少し早い	
27	天塚古墳	京都府京都市太秦	山城	前方後円	全長70.5	2基	A 後円部	10.5		2.1	無袖		6c前葉?中葉?	
							Bクビレ部	4.74	3.01	1.74	片袖		MT15	
28	寺内18号墳	和歌山県和歌山市森小手穂北谷	紀伊	前方後円	全長28.6	2基	A 後円部	0.91		1.6				主軸に直交
							B 前方部	2.63		1.96			TK10	前室有　主軸に斜交
29	前山B53号墳(将軍塚古墳)	和歌山県和歌山市寺内、岩橋	紀伊	前方後円	全長42.5	2基	A 後円部	3.32		2.23				石棚有　主軸に直交
							B 前方部	2.4		1.9				石棚有　主軸に直交

30	前山B67号墳 (知事塚)	和歌山県和歌山市	紀伊	前方後円	全長30.5	2基 +竪穴式石室	A 後円部		2.4	2.05	両袖			石棚
							B 前方部		2.0	0.9	両袖			
31	前山BK-4号墳	和歌山県和歌山市	紀伊	円	径17	2基 +不明埋葬施設	A 1号		2.5	2	両袖			
							B 2号		2.4	2	両袖			
32	上ミ山古墳	和歌山県西牟婁郡すさみ町	紀伊	円or方	径40	2基 +箱式石棺	A		2.3	2.1	右片袖		6c前半	石障5枚3区に開床
							B							
33	三島1号古墳	徳島県美馬郡穴吹町	阿波	長楕円	全長15	2基並列	A 第1	5.25	2.3	2.01			TK43	段ノ塚穴型
							B 第2							
34	北山八幡古墳	香川県大川郡	讃岐	円	径15	2基縦横並列	A 1号	6.2	3.4	1.7			6c後半	追葬有
							B 2号		2.5	1.3			Aのすぐ後	追葬有
35	岩岡1号・2号墳	香川県仲多度郡満濃町	讃岐	円		2基並列	A 第1	9	7	2				
							B 第2							未調査
36	山王谷古墳	香川県三豊郡山本町	讃岐	長方形		2基並列							7c	
37	吉王4号・5号	香川県三豊郡財田町	讃岐	不明	不明	2基縦横並列	A 4号		2.3		片袖or両袖		6c末	
							B 5号	約3.8	2.6	1.1	無袖		7c中葉	
38	上母神8号古墳	香川県観音寺市木之郷町	讃岐	円	径27 (周溝含む)	2基異方向 約125°	A 第1	6.5	3.4	1.6	両袖		6c末~7c前葉	
							B 第2	3.8	2.6	1.2	両袖(無袖に近い)			
39	小天子塚古墳	香川県観音寺市粟井町	讃岐	円or楕円	不明	2基異方向?	A	4		1.2	無袖			未調査
							B							未調査
40	お高山古墳	愛媛県川之江市妻鳥町	伊予	円	径23	2基異方向	A 1号	6.5	3.1	1.9	両袖		6c末~7c初	追葬有
							B 2号	6.4	3.4		両袖			
41	向山古墳	愛媛県川之江市金生町	伊予	長方形?	40×14	2基並列	A 東	11	4	2.4	両袖		7c第二四半期 TK217	切石大型石室
							B 西							
42	[illegible]	愛媛県今治市	伊予	前方後円	全長30	2基	A 後円部	6.1	4.8	2.25	片袖		6c後半	
							B 前方部							埋没不明
43	治平谷1号墳	愛媛県今治市	伊予			2基異方向	A 第1	2.26		0.79			6c前半	
							B 第2	3.08		1.34			6c中葉	
44	治平谷2号墳	愛媛県今治市	伊予			2基並列	A 第1	2.58		0.82			6c中葉	
							B 第2	3.32		1.2			6c中葉	
45	治平谷3号墳	愛媛県今治市	伊予			2基並列	A 第1	3.24		1.52			6c後半	
							B 第2	3.44		1.72			6c後半	
46	治平谷11号	愛媛県今治市	伊予	円		2基	A 1号	3.52		1.78	無袖		6c前半	
							B 2号	0.94		0.5				
47	妙見山3号墳	愛媛県越智郡大西町	伊予	前方後円	全長30	2基							TK43	詳細不明
参考	浜田2号	愛媛県	伊予										6c前半~中 MT15~TK10	
48	新城3号	愛媛県北条市下難波	伊予	長方形	長径32.5	2基	A	9.1	7	2	両袖			石棚有
							B							未開口
49	新城5号	愛媛県北条市下難波	伊予	楕円 or長方形	全長約45	2基異方向	A 中央部	6	5	3.1	右片袖		6c後半	
							B 北東部	10.2	5.5	2.2	両袖		7c前半	
50	客谷B地区2号墳	愛媛県松山市南江戸	伊予	円	径16	2基並列 +小石室	A A石室	5.2	3	1.7	無袖		7c初頭	
							B B石室	4	2.8	1.2	無袖			
51	[illegible]谷2号墳	愛媛県松山市[illegible]	伊予			2基並列 +箱式石棺	A A主体部		3.2	1.8	両袖無		6c中頃~後半 TK10	
							B B主体部		2	0.8	竪穴系横口式?		Aと同時期?	
52	[illegible]古墳	愛媛県松山市[illegible]	伊予	円	不明	2基並列								
参考	[illegible]古墳	愛媛県松山市[illegible]	伊予	円	径12	2基	A 1号	2.64		1.2	竪穴式		中期末~後期初頭	
							B 2号	1.2		0.5	竪穴式			
参考	[illegible]神社古墳	愛媛県松山市[illegible]	伊予	円		2基								
53	芝ケ峠A号墳	愛媛県松山市[illegible]ノ子町	伊予	円	径15	2基並列	A	4.84	3.94	1.85	右片袖			
							B			2.25				
54	芝ケ峠B号墳	愛媛県松山市[illegible]ノ子町	伊予	円	径15	2基					両袖			羽子板形
55	芝ケ峠C号墳	愛媛県松山市[illegible]ノ子町	伊予	円	径15	2基					両袖			羽子板形
参考	東山鳶ケ森1号墳	愛媛県松山市東石井町	伊予	円	径11	2基	A A石室	2.9		1.3	竪穴式		同時構築	
							B B石室	2.3		1.1	竪穴式			
56	東山鳶ケ森4号墳	愛媛県松山市東石井町	伊予	円	径13.7	2基縦横並列	A A石室	6.3	3.2	1.8	両袖		7c第二四半期	羽子板形
							B B石室	3.5	2.3	1	両袖		6c末 TK217?	
57	東山鳶ケ森8号墳	愛媛県松山市東石井町	伊予	円	径14	3基	A	6.8	4.1	2.2	両袖		6c末~7c初頭	
							B	2.8		1.3	[illegible]		6c末~7c初頭	
							C			1				
58	[illegible]古墳	愛媛県温泉郡川内町	伊予	方or双円 or楕円	36×21	2基	A 中央部	8	2.8		両袖		7c中葉 TK217	巨石墳 埋没不明
							B							
59	大下田2号墳	愛媛県伊予郡砥部町	伊予	楕円	20×18	2基 +箱式石棺	A 1号	5.2	3.2	1.65	両袖		6c後半 TK43	
							B 2号	6.2	4.5	1.9	両袖		6c後半~末 TK43	
60	大下田3号墳	愛媛県伊予郡砥部町	伊予	楕円	34×26	2基並列	A	5.1	2.85	2	両袖		6c末 TK209	
							B	11.2	3.7	1.8	両袖		6c末 TK209	複室構造?
61	大下田4号墳	愛媛県伊予郡砥部町	伊予	円	径25	3基 AB並列	A	5.6	2.8	2.1	両袖		6c末 Cの後	
							B	5.3	2.6	2	両袖		6c末Cの後 C→A→Bの順か?	
							C		4.6	1.98	無袖		6c後半 追葬有	
62	大下田東8号墳	愛媛県伊予郡砥部町	伊予	方	10×10	2基								
63	うしお塚古墳	愛媛県松山市平井町	伊予	円		2基								

64	葉佐池古墳	愛媛県松山市北梅本町	伊予	前方後円	全長約60	4基異方向	A 1号	4	2.8	1.4			6c中~後半追葬有	
							B 2号	5		2.3	小型竪穴			
							C 3号	1.5		0.5				
							D 4号							
65	打場山遺跡群	広島県府中町	安芸										古墳末期	
66	畝観音古墳	広島市安佐北区高陽町	安芸	前方後方	全長25	2基	A 後方部	1.8以上		1				主軸に直交
							B 前方部	0.8以上		0.6				主軸に直交
67	周防車塚古墳	山口県防府市東佐波令町	周防	前方後円	全長58 (推定)	2基	A 後円部	8.1		2.4				竪室構造 主軸にほぼ直交
							B 前方部	8		2.2				竪室構造 主軸にほぼ直交
68	牧正一古墳	京都府福知山市牧	丹波	前方後円	全長35	3基	A 後円部	13		3			6c後半	
							B 前方部	10		2.8				
							C 墓3			1.3				
69	上神48号墳	鳥取県倉吉市上神	伯耆	前方後円	全長約34	2基	A 後円部	4.7		2.24				[illegible] 主軸方向に開口
							B 前方部							
70	井原古墳 (宇坂3号墳)	鳥取県倉吉市井原	伯耆	前方後円	全長約24	2基	A 後円部							石室埋設 主軸に直交
							B 前方部							石室埋設 主軸に直交
71	岩屋堂古墳 (岩屋墳)	鳥取県西伯郡中山町	伯耆	前方後円	全長約29	2基	A 後円部			2.2				羨道部埋設 主軸に斜交
							B 前方部							破壊 主軸に直交?
72	石州府56号墳	鳥取県米子市石州府	伯耆	前方後円	全長26	3基	A 後円部	6.3		1.8			TK43~TK209	主軸に直交
							B 前方部	4.4		1.8			TK43~TK209	主軸に直交
							Cクビレ部	3.3		1.1			TK43~TK209	主軸に直交
73	別所1号墳 (長者原古墳)	鳥取県米子市別所	伯耆	前方後円	全長約27	2基	A 後円部	3		1.6			TK43~TK209	
							B 前方部	2.3		1.4				
74	宗像1号墳	鳥取県米子市宗像	伯耆	前方後円	全長約37	2基	A 後円部	3.2		1.95				
							B 後円部	2.3		0.9				
75	薄井原古墳	島根県松江市坂本町	出雲	前方後方	全長50	2基	A 1号	7.6	3.9	2.6	右片袖		6c後半 MT85orTK43	組合式家形石棺
							B 2号	8	4.3	2.3	右片袖		6c中葉~後半	組合式箱式石棺
76	八王子(貴船内)古墳	福岡県北九州市八幡西区	筑前	不明		2基並列	A 東石室	5		1.1	無袖		7c中葉~後半 複室竪穴構造	切石積石室
							B 西石室	2.45		0.89	無袖			
77	小正西古墳	福岡県嘉穂郡穂波町	筑前	円	径約30	2基異方向 約100°	A 1号	4.55		2.9	両袖		6c前後期頃構築	羽子板形
							B 2号	2.6		1.3				羽子板形
78	城ケ谷3号墳	福岡県宗像市	筑前	前方後円	全長22	2基	A 後円部	3.6		1.78				主軸にやや斜交
							B 前方部	1		0.6				主軸にやや斜交
参考	老司古墳	福岡県福岡市南区	筑前	前方後円	全長76	4基	A後円部1号	2.13		1.02	竪穴系横口式			主軸に直交
							B後円部2号	1.71		0.6	竪穴系横口式			主軸に平行
							C後円部3号	3.23		2.1	竪穴系横口式			主軸に平行
							D前方部4号	2.25		0.7	竪穴系横口式			主軸に直交
79	塚堂古墳	福岡県浮羽郡吉井町	筑後	前方後円	約91	2基	A 後円部		5	2.1				組合式石棺
							B 前方部		3.35	1.7				
80	稲荷塚古墳	佐賀県三養基郡上峰町	肥前	前方後円	全長50	2基	A 後円部	3.0		2.0				主軸に斜交
							B 前方部	2.6		2.8				主軸に斜行
参考	谷口古墳	佐賀県東松浦郡浜玉町	肥前	前方後円	全長77	2基	A 後円部東	2.9		1.6	竪穴系横口式			合掌式 主軸に平行
							B 後円部西	3.16		1.86	竪穴系横口式			合掌式 主軸に平行
81	勇猛寺古墳	佐賀県杵島郡北方町	肥前	長楕円	長径20	3基環状配列	A 1号	4.84	3.24	1.7	両袖		6c後半	
							B 2号	4.8	2.1	1.64	両袖		6c後半	
							C 3号	3.6	1.9	1.26	両袖		6c後半	
82	安坂山高神社境内古墳	三重県名張市	伊賀	前方後円	全長50	2基	A 前方部	9.6	4.6	1.7	両袖		6c中葉	
							B 後円部	1	4.75	2.05	両袖			
参考	平田17号古墳	三重県安芸郡	伊勢			2基並列					竪穴系横口式石室		6c前半	
83	野原古墳	埼玉県大里郡江南町	武蔵	前方後円	42(復原)	2基	A 後円部	4.8	3.1	2.1	右片袖			凝灰岩切石 主軸に直交
							B 前方部	3.8	3.2	2.0	無袖			凝灰岩切石 主軸に平行
84	龍角寺岩屋古墳	千葉県印旛郡栄町	下総	方	80×80	2基並列	A 西石室						7c前葉~中葉	
							B 東石室							
85	八幡社46号墳 (八幡社古墳)	滋賀県八日市市	近江	前方後円	全長21	3基	A 後円部	4.2		1.5			6c中葉	L字形
							B 前方部	4.8		1.6				
							C 前方部	3.15		1.1				
86	野瀬2号墳	滋賀県	近江			2基	A 墓1		1.9	1				
							B 墓2		2.2	1.2				
87	岩屋古墳 (岩屋不動古墳)	滋賀県蒲生郡竜王町	近江	前方後円	全長40	2基	A 後円部							
							B 前方部	5.4		2.5				主軸に斜交
88	国分大塚古墳	滋賀県大津市国分	近江	前方後円	全長45	2基	A 後円部	6.6		2.15				主軸に斜交
							B 前方部	2.9		1.6				主軸にほぼ直交
89	次郎兵衛塚1号墳	岐阜県可児市	美濃	方	29.5×29.5	3基 内2副室	A 主室	15.5	7.5	2.1			6c末	複室構造
							B 西副室	7.4	2.9	1.1				
							C 東副室	1.7		0.8				
90	ふな塚古墳	岐阜県各務原市	美濃	前方後円	45(現存長)	2基	A 後円部							
							B 前方部							組合式家形石棺 主軸に直交
91	大室古墳群165号墳	長野県長野市	信濃	円or方	径8	2基並列?	A	1.9		0.6				積石塚 合掌形
							B	1.9		0.6				

92	調令所山調跡 A区1号墳	群馬県渋川市	上野			2基前後?	A B								
参考	静土山古墳 （天祖村1号墳）	群馬県佐波郡玉村町	上野	前方後円	48.5	2基?	A 墳丘主体部 B 埋立土坑部	8.33		2.44	粘土				主軸に直交
93	前社二子山古墳 （前社町1-1号墳）	群馬県前橋市前社町	上野	前方後円	89.8	2基	A 前方部 B 後円部	9.4 8.7	6.8 4.4	3.4 2.2	礫槨 礫槨				自然石並び礫外 約1石目1段
94	二ツ室塚古墳	藤岡市鬼高鬼高森上村	下野	前方後円	46.5(推定)	2基	A 後円部 B 前方部	7.13 4.8		1.62 1.42	無袖 無袖				主軸に直交前後 主軸に直交前後
95	十善ノ森古墳	富岡市高瀬上中町	西毛	前方後円	全長67	2基	A 後円部 B 前方部	4.2 1.6		2 1.45	礫槨 石材抜			5cm~6cm前後	段ノ森古墳 主軸に直交 主軸に直交
96	近士寺東遺跡3号墳	富岡市高谷林	西毛	円		2基								皮張	
97	近士寺東遺跡4号墳	富岡市高谷林	西毛	円		2基								皮張	
98	横尾谷古墳	伊勢崎市赤堀町西久保	佐波	方	25×25	2基並列	A 墳丘 B 墳丘	9.2 8.1	2.2 1.7	3.25 2.7		漆喰		7cm前後 TK217orTK46	T7世 須しず世

※1・本表は一つの墳丘に2基以上の横穴式石室を持つ古墳を掲載した。（横穴1＋竪穴式、箱式石棺等の事例は対象外とした。）
※2・空欄については、未調査、破壊、盗掘等により不明な事例や資料収集不足により掲載できない事例の両者が含まれている。。
※3・数値の単位はmである。
※4・収集した資料の中には横穴式石室であると判断しがたいものも含まれているが、報告書に横穴式とあるものは掲載している。
※5・石室配置の欄では、並列、ほぼ並列、直角以外のものを異方向とした。なお、配置状況が不明なものについては石室数のみ記した。
※6・玄室幅の欄では、原則的に玄室奥壁幅を記したが、数値が不確かなものについては玄室最大幅を記した。
※7・竪穴系横口式石室は〔参考〕とした。また、舞谷2号は一基であるが〔参考〕として掲載した。
　その他参考となる事例についても〔参考〕として掲載した。
※8・前方後円墳の石室名欄には おおむね石室の位置を記した。
※9・情報が新聞報道等のみで、詳細なものが不明なものについても、可能性が考えられる事例はできるだけ掲載した。
※10・いわゆる双円墳等については、今回対象外にした。

【参考・引用文献】

- 『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅱ』　松山市教育委員会　昭和62～63年度
- 『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅴ』　松山市教育委員会　㈱松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター1993
- 『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅶ』　松山市教育委員会　㈱松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター1995
- 『松山市文化財調査報告書第15集　東山窯が森古墳群』　松山市教育委員会　S56.4.30
- 『松山市文化財調査報告書33　影浦谷古墳』　松山市教育委員会　㈱松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター1993
- 『川之江市史』　川之江市　S59.11.1
- 『今治市埋蔵文化財調査報告書第４集　治平谷11号墳』　今治市教育委員会　S54.2.1
- 『奈良県文化財調査報告書第60集　シントク古墳群』　奈良県立橿原考古学研究所　1990
- 『奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第62冊　寺口千塚古墳群』　奈良県立橿原考古学研究所　1991.3
- 『大和宇陀地域における古墳の研究』　宇陀古墳文化研究会　財団法人由良大和古代文化研究協会　1991.7
- 『前方後円墳集成　近畿編』　山川出版社　1992.12
- 『前方後円墳集成　中国・四国編』　山川出版社　1991.12
- 『前方後円墳集成　九州編』　山川出版社　1992.2.25
- 『前方後円墳集成　東北・関東編』　山川出版社　1994.2.15
- 『前方後円墳集成　中部編』　山川出版社　1992.2.25
- 『全国古墳編年集成』　雄山閣出版　1997.6.25
- 『舞谷古墳群の研究』　奈良県立橿原考古学研究所　磚槨墳研究会　㈱由良大和古代文化研究協会1994
- 『伊予三島市史　上巻』　伊予三島市　S59.11.1
- 『松山市史　第一巻』　松山市役所　H4.10.31
- 『松山市史料集　第二巻』　松山市役所　S62.4.1
- 『大阪府文化財調査概要1972-8　堂山古墳群発掘調査概要』　大阪府教育委員会　1973.3
- 『勇猛山古墳群』　佐賀県教育委員会　S42.1
- 『薄井原古墳調査報告』　島根考古学会　S37.3.31
- 『今治市桜井国分唐子古墳（墳基）群調査報告　唐子台遺跡群』　今治市教育委員会　S49.5.25
- 『市民双書24　古代の松山平野－発掘調査資料を中心として－』　松山市教育委員会　S57.3.31

- 『日本の古代遺跡22愛媛』　保育社　S60.7.31
- 『愛媛の文化第六号』　愛媛県文化財保護協会　S42.10.20
- 『若狭上中町の古墳』　上中町教育委員会　S45.12.1
- 『奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第21冊　大和二塚古墳』　奈良県教育委員会　S37.3.31
- 『季刊考古学・別冊3　東国の古墳』　雄山閣出版㈱　1992.11.20
- 『月刊文化財発掘出土情報』通巻145号　㈱ジャパン通信社　1994.12
- 『月刊文化財発掘出土情報』通巻149号　㈱ジャパン通信社　1994.4
- 『月刊文化財発掘出土情報』通巻156号　㈱ジャパン通信社　1995.10
- 『月刊文化財発掘出土情報』通巻163号　㈱ジャパン通信社　1996.5
- 『月刊文化財発掘出土情報』通巻170号　㈱ジャパン情報通信センター　1996.11
- 『地歴の窓　第11号』　香川県立観音寺第一高等学校地歴部　S55.3
- 『香川県史1』　香川県　1988
- 『香川の文化財（市町編）』　香川県文化財保護協会　S61.3
- 『満濃町史』　満濃町役場　S54
- 『観音寺市誌』　観音寺市　1985
- 『三豊郡史』　香川県三豊郡役所1912　㈱名著出版1973復刻
- 『黒島林第5・6号墳調査報告』　黒島林古墳群発掘調査団　1977
- 『母神山古墳群千尋支群第1・4・5・6号墳』　観音寺市教育委員会　1973
- 『全国遺跡地図　香川県』　文化庁文化財保護部　1977
- 『久米塚古墳』　観音寺市教育委員会　1996.3
- 『久米東塚古墳』　観音寺市教育委員会　1997.3
- 『新訂増補　國史大系（普及版）日本三代實録　前篇　後篇』　吉川弘文館　S49.10.1
- 『大阪府史　第1巻　古代編Ⅰ』　大阪府　S53
- 『太子町の古墳墓』　太子町教育委員会　S53.3
- 『日本の考古学Ⅳ　古墳時代　上』　河出書房新社　S56.6.20
- 『和歌山県史　原始・古代』　和歌山県　H6.3.31
- 『和歌山県史　考古資料』　和歌山県　S58.2.25
- 『吉田古墳発掘調査報告書』　財田町教育委員会　1992.3
- 『小正西古墳　現地説明会資料』　穂波町教育委員会　H9.2.8
- 『小正西古墳』　穂波町教育委員会

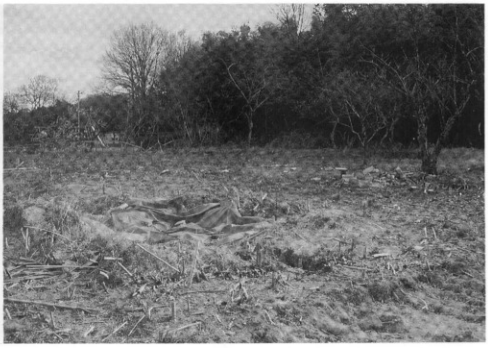
6．写真

目　　次

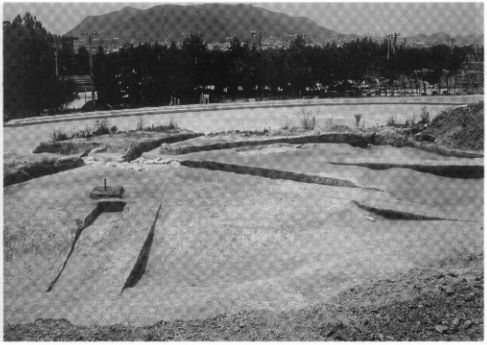
1．三豊平野全景（↓印は母神山）－雲辺寺山頂より
2．上母神8号古墳周辺－航空写真
3．発掘調査前の状況
4．上母神8号古墳全景－南東側より
5．上母神8号古墳全景－北東側より
6．第1石室・第2石室の状況－北東側より（手前が第2石室）
7．第1石室第2床面－北西側より
8．第1石室第1床面－北西側より
9．第1石室第2床面
10．第1石室第1床面
11．第1石室羨道付近
12．第1石室玄室袖部
13．第1石室遺物出土状況（その1）
14．第1石室遺物出土状況（その2）
15．第1石室遺物出土状況（その3）
16．第1石室遺物出土状況（その4）
17．第1石室遺物出土状況（その5）
18．第1石室遺物出土状況（その6）
19．第2石室第2床面
20．第2石室第1床面
21．第2石室第2床面
22．第2石室第1床面
23．第2石室遺物出土状況（その1）
24．第2石室遺物出土状況（その2）
25．Nトレンチ
26．Wトレンチ
27．Sトレンチ
28．SEトレンチ
29．Eトレンチ
30．Sトレンチ第1石室側壁外側の状況
31．Eトレンチ第1石室奥壁外側の状況
32．Eトレンチ第1石室奥壁外側の状況
33．第1石室羨道側壁と土層の状況
34．第1石室・第2石室間の土層（手前第1石室側）
35．第1石室・第2石室間の土層（第1石室側）
36．第1石室・第2石室間の土層（第2石室側）
37．第1石室基底石の状況
38．第2石室基底石の状況
39．出土遺物(1)　須恵器（第1石室）
40．出土遺物(2)　須恵器（第1石室）
41．出土遺物(3)　紡錘車　耳環　鉄鏃（第1石室）
42．出土遺物(4)　耳環　管玉　ガラス玉　算盤玉（第1石室）
　　ガラス玉（第2石室）

1．三豊平野全景（↓印は母神山）－雲辺寺山頂より

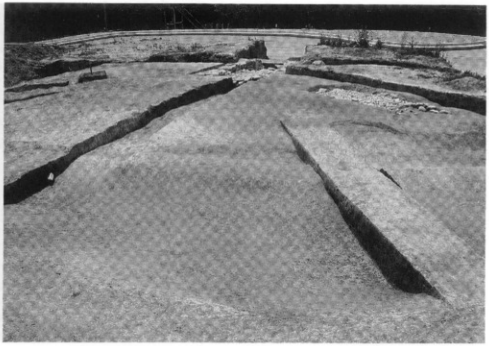
2．上母神８号古墳周辺－航空写真



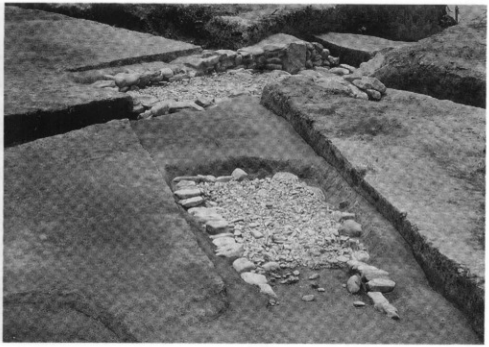
3．発掘調査前の状況



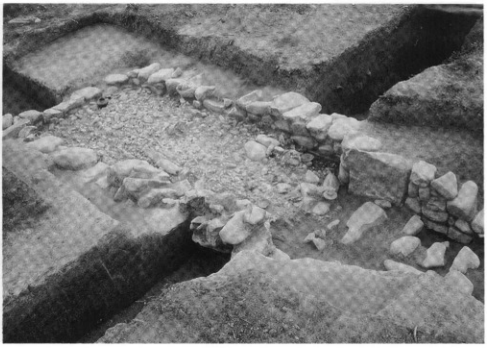
4．上母神８号古墳全景－南東側より



5．上母神８号古墳全景－北東側より



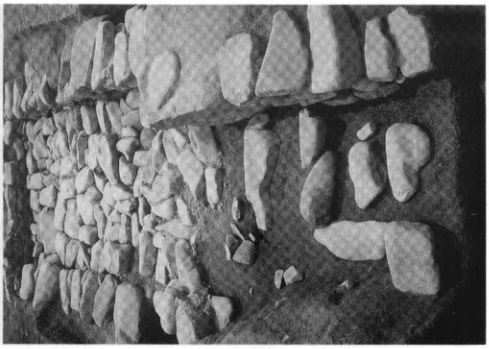
6．第１石室・第２石室の状況－北東側より（手前が第２石室）



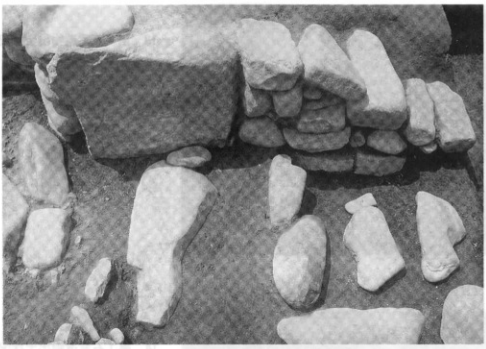
7．第１石室第２床面－北西側より

8．第１石室第１床面－北西側より

9．第１石室第２床面



10．第１石室第１床面

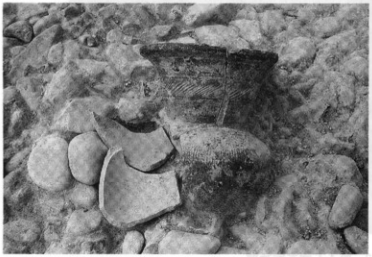


11. 第１石室羨道付近

12. 第１石室玄室袖部

13. 第１石室遺物出土状況（その１）

14. 第１石室遺物出土状況（その２）

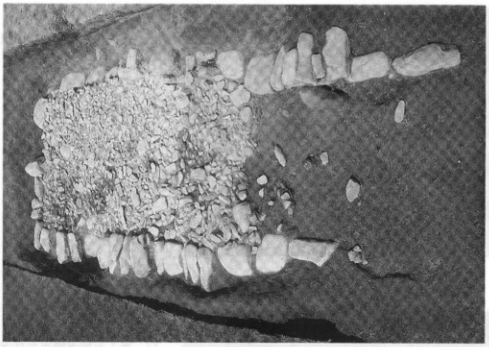


15. 第１石室遺物出土状況（その３）

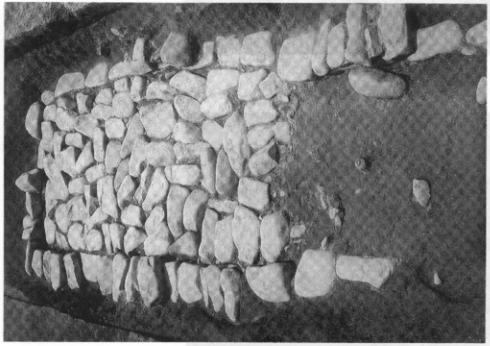
16. 第１石室遺物出土状況（その４）

17. 第１石室遺物出土状況（その５）

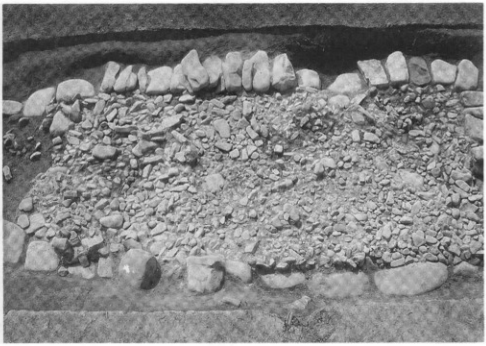
18. 第１石室遺物出土状況（その６）



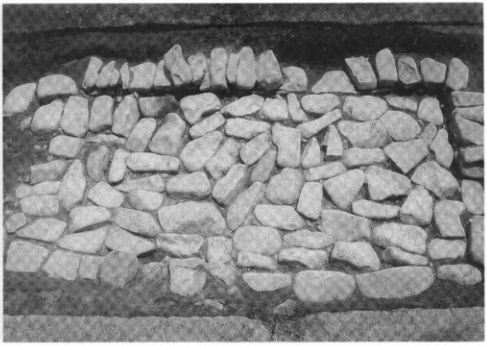
19. 第２石室第２床面



20. 第２石室第１床面



21. 第2石室第2床面

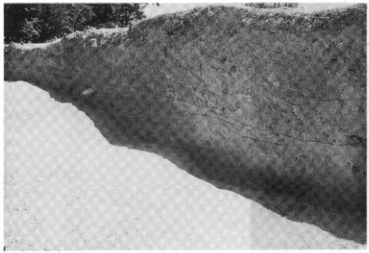


22. 第2石室第1床面

23. 第２石室遺物出土状況（その１）

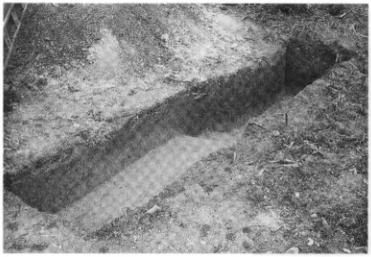
24. 第２石室遺物出土状況（その２）

25. Nトレンチ

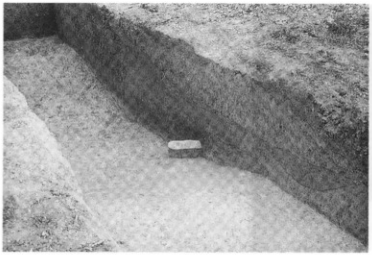


26. Wトレンチ

27. Sトレンチ

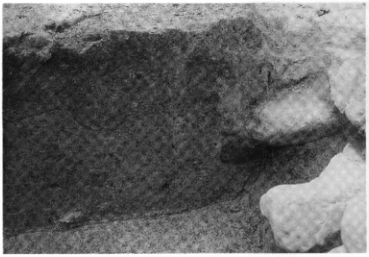


28. ＳＥトレンチ

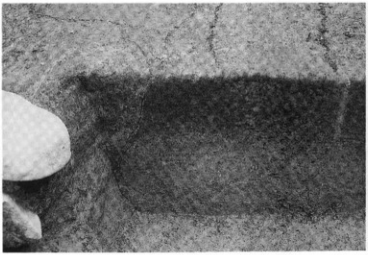


29. Ｅトレンチ

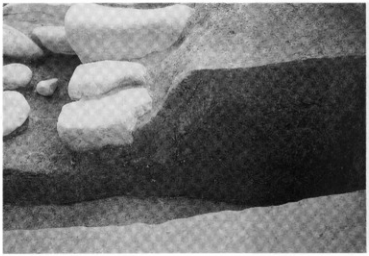
30. Ｓトレンチ
第１石室側壁外側の状況



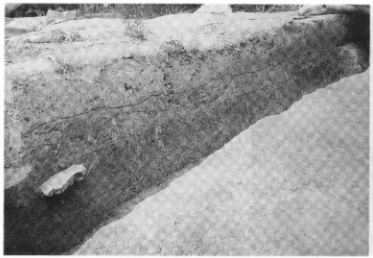
31. Eドレンチ
第1石室奥壁外側の状況



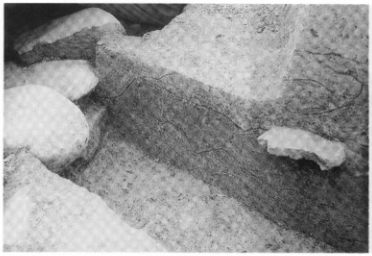
32. Eトレンチ
第1石室奥壁外側の状況



33. 第1石室羨道側壁と土層の状況



34. 第1石室・第2石室間の土層
（手前第1石室側）



35. 第1石室・第2石室間の土層
（第1石室側）

36. 第1石室・第2石室間の土層
（第2石室側）